









旧寺古墳群

前方後円墳である第二号古墳を中心に、十二基が群をなす五世紀後半の特徴的な古墳である。

なかでも南地に主軸をもつ第一号古墳は、全長六・七メートル、後円部径三九・三メートル、高さ六・五メートル、前方部の長さ二五・七メートル、幅二八・八メートル、高さ三メートルの規模をもち、二段築成の墳丘には葺石、埴輪がめぐらされている。

この古墳は、備北地方最大級（県内第四位）の規模であり、広島県の代表的な前方後円墳であるとともに備北・庄原地域の特色を示す古墳として極めて貴重である。

旧寺古墳の実測図



昭和五十九年十二月十九日
広島県史跡指定



